

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞

平均正答率が全国の58.1%に対し54%とし、令和5年度の対全国比87%から93%と改善されている。内容としては「話すこと、聞くこと」領域が－9.4ポイントから－4.0ポイント。「書くこと」は－6.6ポイントから－5.6ポイント。「読むこと」は－11.4ポイントから－5.3ポイントとなっている。依然として全国を下回る結果ではあるが、改善がみられている。また、平均無解答率は令和5年度が9.8%（全国は4.6%）から4.5%（全国は3.9%）とし、取り組みに対する意欲も改善している。

＜数学＞

平均正答率が全国の52.5%に対し52%とし、令和5年度の対全国比80%から99%と大きく改善されている。内容としては全国と比較して、「数と式」領域において、－7.9ポイントから－2.0ポイントと改善があった。また、「図形」領域が－8.2ポイントから、＋0.1ポイントと全国を上回った。そして「関数」領域も－10.3ポイントから－0.9ポイント、「データの活用」領域も－15.3ポイントから－0.2ポイントと大きく改善している。また、平均無解答率は令和5年度が18.3%（全国は9.6%）から13.3%（全国は11.3%）とし、取り組みに対する意欲も改善している。

○チャレンジテスト(3年生)結果

＜国語＞

府平均65.2に対して63.3と97%（対市比97%）となっている。昨年度（現高校1年）は91%であったので6%アップである。また、同学年（現3年）では94%であり、こちらも3%のアップである。得点分布では府と比較して全体的には同じ傾向であるが、25～29点の割合が多く、95～100点の割合が低い。

問題の分類、区分別にみても、ほとんどが府を少し下回り、大きく課題がある部分は見当たらない。全国学力学習状況調査では正答率が府に対して「読むこと」が4.6%低く、「記述式」も7.6%低かったことから、改善はみられる。

＜社会＞

府平均50.4に対して52.1と103%（対市比104%）となっている。昨年度（現高校1年）は96%であったので7%アップである。また、同学年（現3年）では102%であり、こちらも1%のアップである。得点分布では府と比較して全体的には同じ傾向であるが、20～29点の割合が低く、30～39点の割合が高く、平均点以下の層が頑張っていると思われる。

問題の分類、区分別にみても、ほとんどが府を少し上回り、大きく課題がある部分は見当たらない。

＜数学＞

府平均49.1に対して48.0と98%（対市比98%）となっている。昨年度（現高校1年）は88%であったので10%アップである。しかし、同学年（現3年）では100%であり、こちらは2%のダウンである。得点分布では府と比較して全体的には同じ傾向であるが、のこごりのようにいびつな状況であり、高い割合では府を上回り、低い割合では府を下回っている傾向にある。

問題の分類、区分別にみても、ほとんどが府を少し下回り、大きく課題がある部分は見当たらない。

全国学力学習状況調査では正答率が府に対して「思考・判断・表現」が2.0%高く、「短答式」は2.9%低いが、「記述式」は2.0%高かったことから、全体的には下がっているが、改善もみられる。

＜理科(C問題)＞

府平均52.3に対して51.0と98%（対市比98%）となっている。昨年度（現高校1年）は92%であったので6%アップである。しかし、同学年（現3年）では100%であり、こちらは2%のダウンである。得点分布では府と比較して全体的には同じ傾向であるが、5～9点の割合が高く、10～24点の割合も高い、90～100点の割合が低い。ただ、平均点以上の層は頑張っていると思われる。

問題の分類、区分別にみても、ほとんどが府を少し下回り、大きく課題がある部分は見当たらないが、「評価の観点」の『思考・判断・表現』が1.5点下回り、少し差が大きい。

＜英語＞

府平均53.2に対して48.6と91%（対市比90%）となっている。昨年度（現高校1年）は83%であったので8%アップである。しかし、同学年（現3年）では92%であり、こちらは1%のダウンである。得点分布では府と比較し、10～44点の割合が高い。65～69点の割合が極端に低く、80～100点の割合も低い。

問題の分類、区分別にみても、ほとんどが府を少し下回り、「書くこと」の2.3点や「知識・技能」の3.0点、また「選択式」が3.1点と差がある。

【今後に向けて】

依然として、多くの教科において、大阪府や大阪市の平均に対し、全体的に基礎的な学力が定着していない。しかし、生徒の学習状況に応じたプリントを作成し、添削と助言を行ってきたことから、一定の改善は見られる。基礎学力の定着には自学自習も必要不可欠となるので、デジタルドリルやアプリを活用し、家庭学習にもつなげ、積み重ねることで改善を目指している。授業外においては放課後学習やテスト前学習、長期休業期間学習を継続して活用していく。